

# 蓮田市第 6 次総合振興計画 序論（たたき台）

令和 8 年 1 月



## 《 目 次 》

第Ⅰ編 序論.....	1
<b>第1章 計画の概要</b> .....	2
1. 計画策定の趣旨.....	2
2. 計画の構成と期間.....	3
3. 計画策定の基本的な考え方.....	4
<b>第2章 計画の背景</b> .....	5
1. 蓮田市を取り巻く時代潮流等.....	5
2. 蓮田市の概況.....	7
3. 市民の意見.....	13
4. 第5次総合振興計画の総括.....	
5. まちづくりの基本的な課題.....	
第Ⅱ編 基本構想.....	
<b>第1章 まちの将来像とまちづくりの理念</b> .....	
1. まちの将来像.....	
2. まちづくりの理念.....	
3. 人口の将来展望.....	
<b>第2章 土地利用構想</b> .....	
<b>第3章 基本政策</b> .....	
第Ⅲ編 前期基本計画.....	
施策体系図.....	
分野別政策・施策.....	
資料編.....	

## 第 I 編 序論

# 第1章 計画の概要

## 1. 計画策定の趣旨

総合振興計画とは、地域における総合的かつ計画的な行政運営を図るための重要な指針を、長期的な展望に基づいて定めるものであり、市政運営のあらゆる施策の根幹をなす最上位計画です。

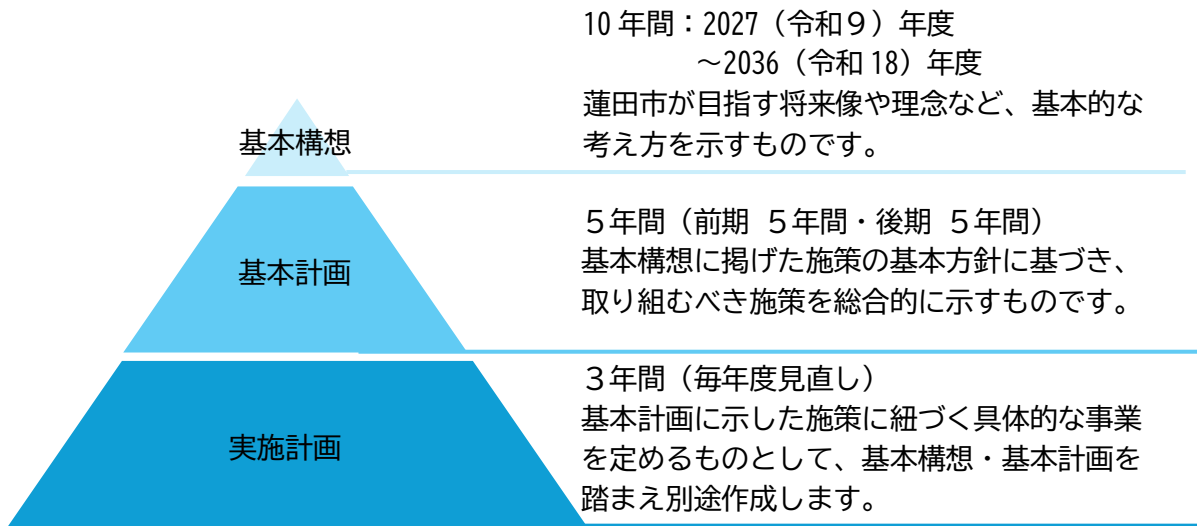
本市では、2018（平成30）年度から2027（令和9）年度までの10年間を計画期間として、第5次総合振興計画を策定し、市の将来像「四季かおる つながり 安心 活きるまち」の実現を目指し、多様な分野において着実な歩みを進めてまいりました。

しかしながら、今日、本市を取り巻く社会経済情勢は、これまでにないスピードと規模で激しく変化しています。少子高齢化・人口減少社会の本格化に加え、デジタル技術の急速な進展、大規模災害への備えや多様性を尊重する社会への移行など、行政が直面する課題は複雑化・高度化しています。このような先行き不透明な時代にあって、不測の事態や社会構造の変化に柔軟かつ的確に対応し、市民の皆様が将来にわたって安全・安心に、そして自分らしく暮らし続けられるまちを創り上げるためには、次代を見据えた新たな指針が不可欠です。

そこで本市では、第5次総合振興計画の成果と課題を正しく分析し継承した上で、新たな時代の要請に応えるべく、ここに「蓮田市第6次総合振興計画」を策定するものです。

## 2. 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成します。



	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16	R 17	R 18	R 19
基本構想 (10年間)	基本構想：令和9～18年度										次期総合振興計画
基本計画 (前期・後期 各5年間)	前期基本計画：令和9～13年度				後期基本計画：令和14～18年度						
実施計画 (3年間、毎 年度見直し)	令和9～11年度		(毎年度見直し)								

### 3. 計画策定の基本的な考え方

総合振興計画は、市政運営の最も基本となる計画であり、長期的な展望とともに、今後のまちづくりに関する取組を総合的かつ体系的にまとめたものです。

計画の策定にあたっては、以下の点を基本的な考え方と位置づけました。

#### ① 柔軟性の高い計画づくり

第5次総合振興計画との連続性に留意しつつ、時々刻々と変化する社会情勢に対応できる柔軟な計画づくりを行います。

#### ② 市民協働による計画づくり

審議会や市民意識調査、小中学生アンケート、市民会議、パブリックコメントの実施など、市民参画の機会を多様な形で設けることにより、市民の視点を取り入れた計画を策定します。

#### ③ 分かりやすい計画づくり

将来を見据え、何に重点的に取り組むのか、戦略的に実施していく施策が分かりやすい計画づくりを行います。

## 第2章 計画の背景

### 1. 蓮田市を取り巻く時代潮流等

#### (1) 人口減少・少子高齢化

2025（令和7）年におけるわが国の総人口は、1億2,433万690人（住民基本台帳人口、1月1日現在）であり、10年前の2015（平成27）年と比較して約390万人の減少となりました。国によれば、日本の総人口は今後も減少傾向で推移し、2070（令和52）年には8,700万人となるものと推計されています。

厚生労働省によれば、2024（令和6）年の出生数は68万6,061人であり、統計開始以来、過去最少を更新しました。少子化傾向に歯止めがかからない深刻な事態を受け、国は「こどもまんなか社会」の実現を掲げ、こどもが健やかに成長できる環境の提供や、結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の構築、少子化の克服に向けた政策を強力に推進しています。

また、2025（令和7）年の高齢化率は28.9%であり、2015（平成27）年と比較して3.3ポイントの上昇となっています。高齢化率は今後も上昇傾向で推移し、2070（令和52）年には38.7%となるものと推計されています。

このような人口減少と高齢化の急激な進行は、経済の停滞や地方自治体の財政状況の悪化を招くだけでなく、地域コミュニティの担い手不足など、社会経済のあらゆる側面に多大な影響を及ぼすものと懸念されています。

#### (2) 安全・安心な暮らしへの意識の高まり

わが国は、近年、地震や風水害など自然災害が相次いでおり、安全・安心な暮らしへの意識が高まっています。こうした中、防災・減災に向けた体制整備や、家庭や地域における日頃からの取組の強化など、自助・共助・公助が一体となった災害に強いまちづくりが改めて求められています。

また、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化することから、適切な維持管理・更新を推進していく必要があります。

さらに、国内の刑法犯認知件数、交通事故発生件数は、ともに減少傾向にあるものの、近年ではインターネットを利用した犯罪や特殊詐欺などが増加しています。警察などの関係機関や地域と連携し、人々の防犯意識を高めながら、子どもから高齢者まで誰もが安全で安心に暮らせる環境をつくることが求められています。

### (3) DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

インターネットをはじめとした ICT（情報通信技術）の著しい発展や AI 技術の活用などにより、社会経済全体から人々の日常生活に至るまで、大きな変革が生じています。特に、世界的な感染拡大が見られた新型コロナウイルス感染症は、社会経済活動や人々の日常的な行動に非常に大きな影響を及ぼし、キャッシュレス決済やネットショッピング、テレワーク、オンライン授業など、生活のあらゆる場面でオンライン化が急速に進展しました。こうした暮らしや働き方、学び方の変革を背景として、ヒトやモノの流れが大きく変化し、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増しています。

国は、2021（令和3）年にデジタル庁を設置し、“誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化”の実現を目指しています。あわせて、ICTを活用して地方を活性化することを目的に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、デジタル基盤の整備やデジタル人材の育成・確保などを通じ、デジタルの力による社会課題の解決と地方の魅力の向上を図るものとしています。

### (4) ウェルビーイング（Well-being）の重視

2024（令和6）年の日本人の平均寿命は、男性が 81.09 年、女性が 87.13 年となっており、わが国は「人生 100 年時代」を体現する世界屈指の長寿国となっています。この未曾有の長寿社会において、100 年という長い人生を充実させる生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）への関心は、かつてないほど高まっています。

また、世界保健機関（WHO）が提唱したウェルビーイング（Well-being）を重視する考え方が国内でも広まりつつあります。これは、一人ひとりの多様な価値観や生き方が尊重され、誰もが自分らしく持続的な幸福を実感できる状態を目指すものです。時代の潮流は、物質的な豊かさから精神的な豊かさへとシフトし、生涯を通じた健康づくりに加え、多様な個性が輝く社会参画や包摂的な共生の重要性が増しています。

## 2. 蓮田市の概況

### (1) 地勢

本市は都心から 40km 圏内の埼玉県南東部に位置し、総面積 27.28 km<sup>2</sup>で南北に長く、概ね平坦な地形となっています。北は久喜市、東は白岡市、南はさいたま市及び上尾市、西は伊奈町及び桶川市と接しており、都心のベッドタウンとして戸建て住宅を中心とした宅地開発が進められてきました。

市内には、元荒川、綾瀬川など大小の河川や見沼代用水、また県自然環境保全地域に指定されている黒浜沼や山ノ神沼など豊かな水辺環境があります。

恵まれた自然環境は古来より人々の営みを支え、縄文時代前期の標式遺跡として知られる国史跡「黒浜貝塚」をはじめ、「綾瀬貝塚」や「雅楽谷遺跡」などがあり、県内でも有数の埋蔵文化財の宝庫となっています。現在では、これら歴史資源を活かした「うたやの森フェスティバル」や、国選択無形民俗文化財「閨戸の式三番」など、市民による文化活動・文化継承も活発に行われており、郷土への愛着と誇りを育む礎となっています。

交通面では、JR 宇都宮線蓮田駅から湘南新宿ラインで新宿駅まで約 40 分、上野東京ラインで東京駅まで約 45 分でそれぞれ直通運転されています。また、国道 122 号や主要地方道さいたま栗橋線などの幹線道路を軸に、南北の交通アクセスが良好となっています。東北自動車道蓮田サービスエリアには、スマートインターチェンジが整備・拡充され、都心へのアクセスが向上したほか、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、成田国際空港周辺まで整備が進み、東西への移動の時間短縮効果などが期待されています。

《近隣市も含め蓮田市の広域的な利便性が理解できる図を作成し、掲載します》

## (2) 沿革

蓮田市の歩みは、約3万年前の旧石器時代まで遡ります。市内からは当時の石器が出土しているほか、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が発見されており、太古よりこの地が居住に適した地であったことを物語っています。縄文時代には「黒浜貝塚」や「関山貝塚」が形成され、これらは土器の型式名（黒浜式・関山式）として考古学史にその名を刻む重要な遺跡となっています。

中世・近世には、元荒川や綾瀬川に囲まれた肥沃な農耕地として発展し、江戸時代には見沼代用水の開削に伴い、水運を活かした物流の要所としても活気づきました。

近代における転換点は、1885（明治18）年の日本鉄道（現 JR 宇都宮線）蓮田駅の開業です。これにより東京との結びつきが強まり、交通の要衝としての地位を確立しました。戦後の1954（昭和29）年、1町2村（蓮田町・黒浜村・平野村）が合併して新制「蓮田町」が誕生。高度経済成長期には都心のベッドタウンとして人口が急増し、1972（昭和47）年10月1日、埼玉県で38番目の市として市制を施行しました。

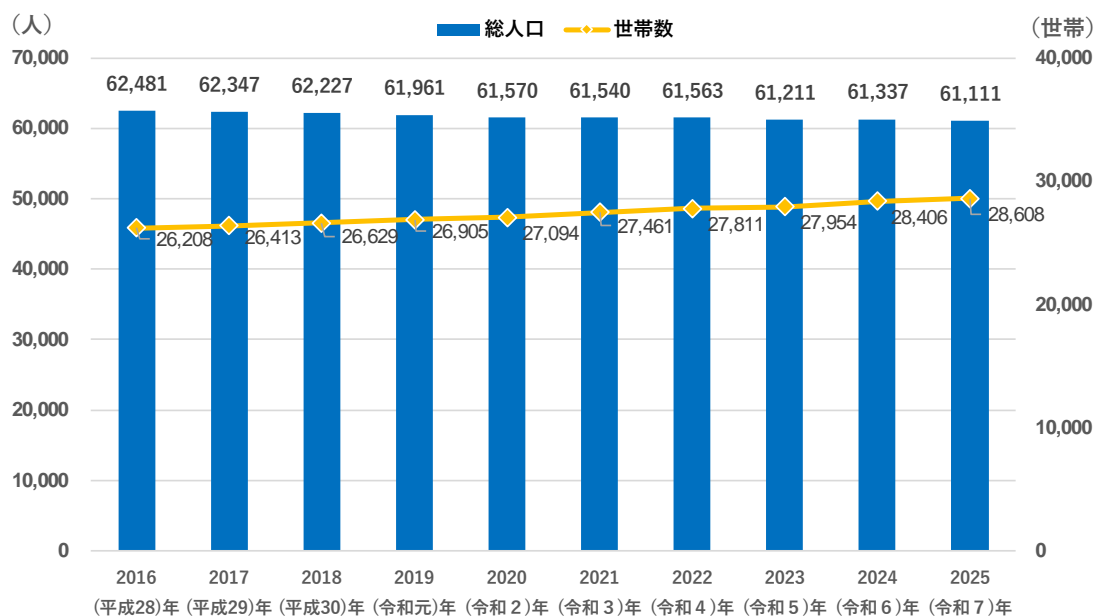
近年では、東北自動車道蓮田スマートインターチェンジの整備や蓮田駅西口の再開発など、都市機能のさらなる向上が進み、2022（令和4）年には市制施行50周年を迎えました。3万年前から選ばれてきた「住みやすさ」の記憶を礎に、蓮田市は豊かな自然と利便性が調和する街として、今も新たな歴史を刻み続けています。

《本市の自然的・文化的特性や魅力が伝わるよう、  
史跡や民俗文化、駅やサービスエリアなどの主要施設の写真を掲載します》

### (3) 人口

#### ① 総人口・世帯

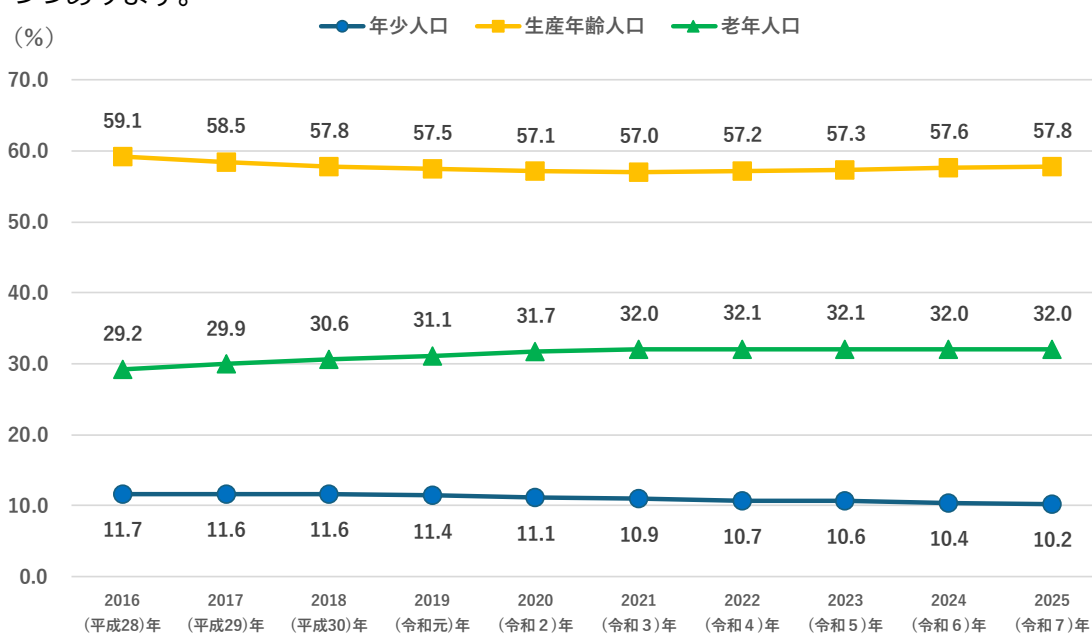
総人口は緩やかに減少し、2025（令和7）年には61,111人となっています。一方、世帯数は漸増傾向にあり、世帯当たり人員数が減少を続けています。



資料：蓮田市「人口推移表（月別）」（各年1月1日時点）

#### ② 年齢3区分別人口

年少人口（0～14歳）割合は一貫して減少する一方、生産年齢人口（15～64歳）割合は微減から横ばい傾向となり、老年人口（65歳以上）割合は微増から横ばい傾向に変化しつつあります。

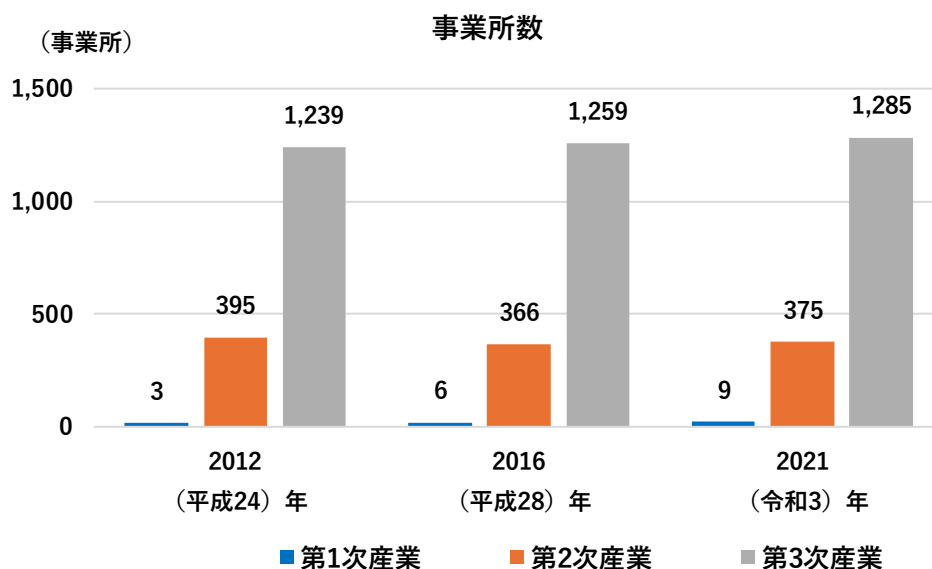


資料：蓮田市「人口推移表（月別）」（各年1月1日時点）

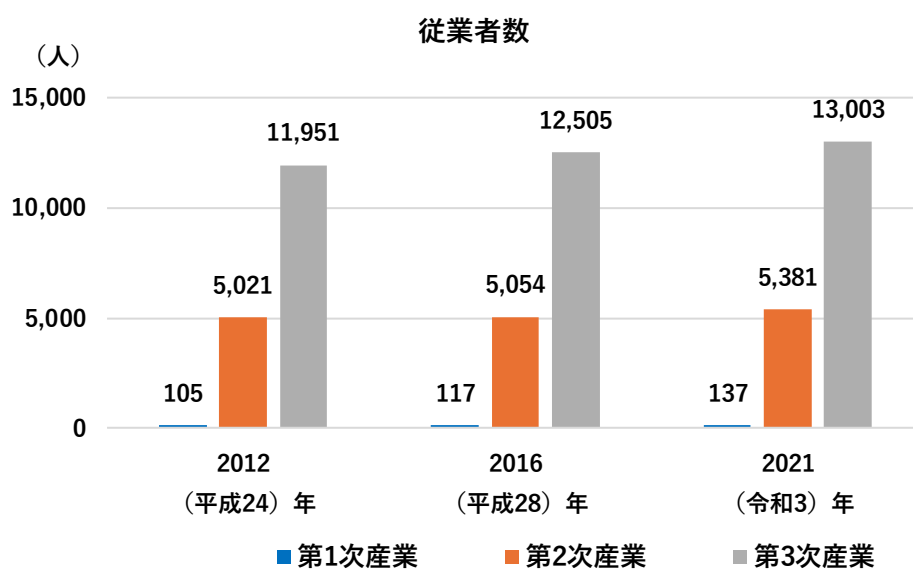
#### (4) 産業

##### ① 事業所数及び従業者数

産業別事業所数は、第1次産業と第3次産業は増加傾向で、一方、第2次産業は概ね横ばい傾向となっています。また、産業別従業者数は、いずれも増加しています。



資料：経済センサス-活動調査

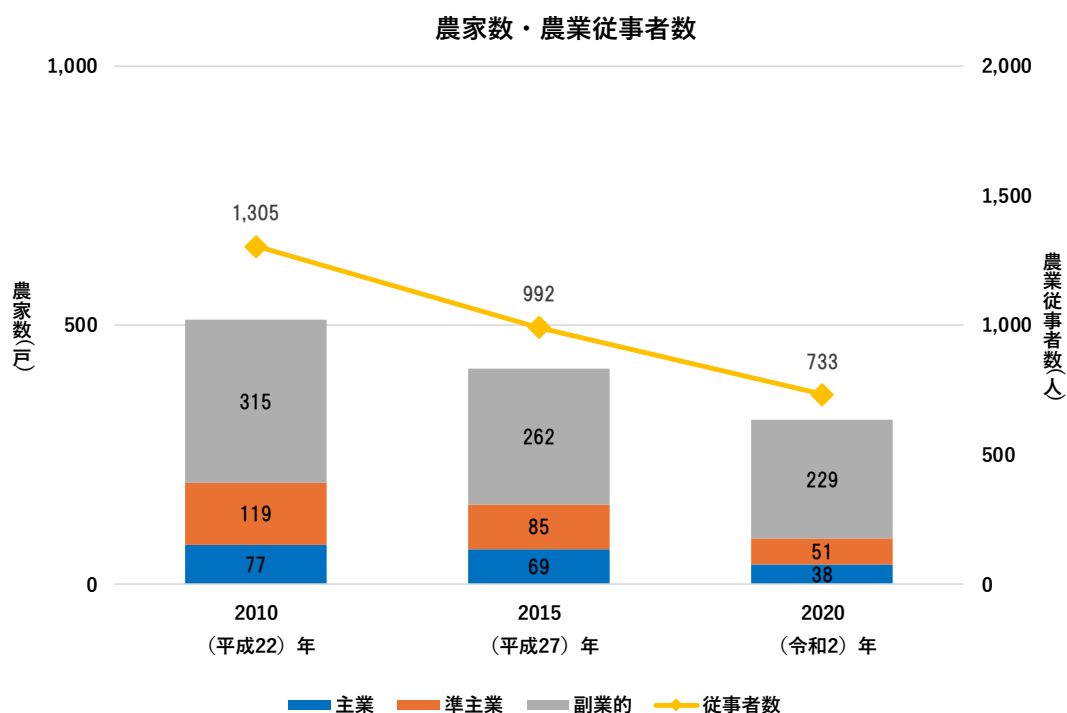


資料：経済センサス-活動調査

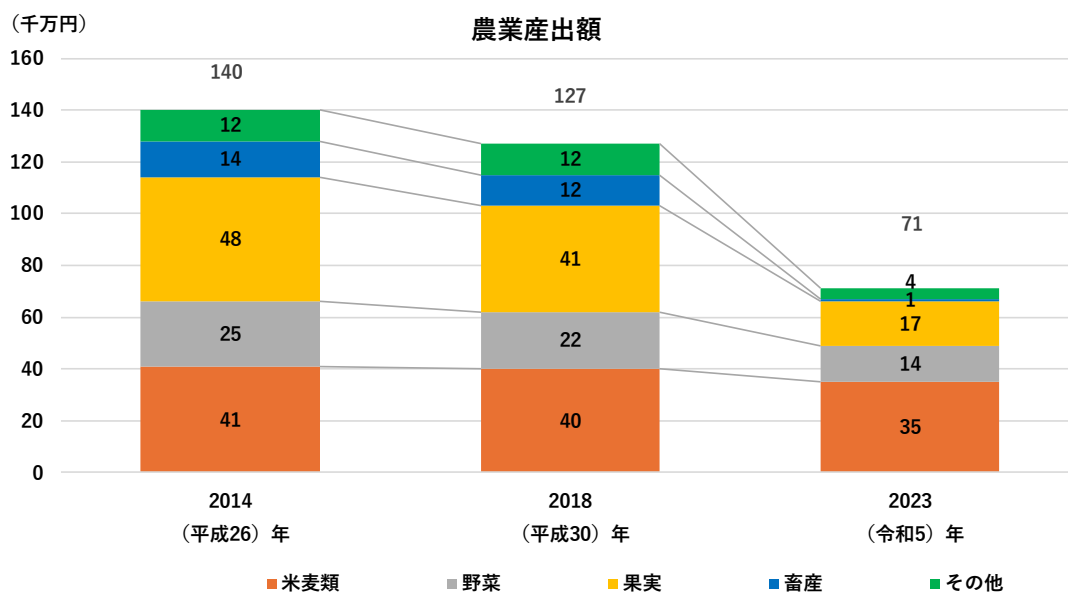
## ② 農業の状況

農家数は減少傾向にあります。特に準主業農家（農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家）の減少率が高く、生産年齢人口の農家離れが進んでいます。

また、農業産出総額が、2018（平成30）年からの5年間で大きく減少しています。



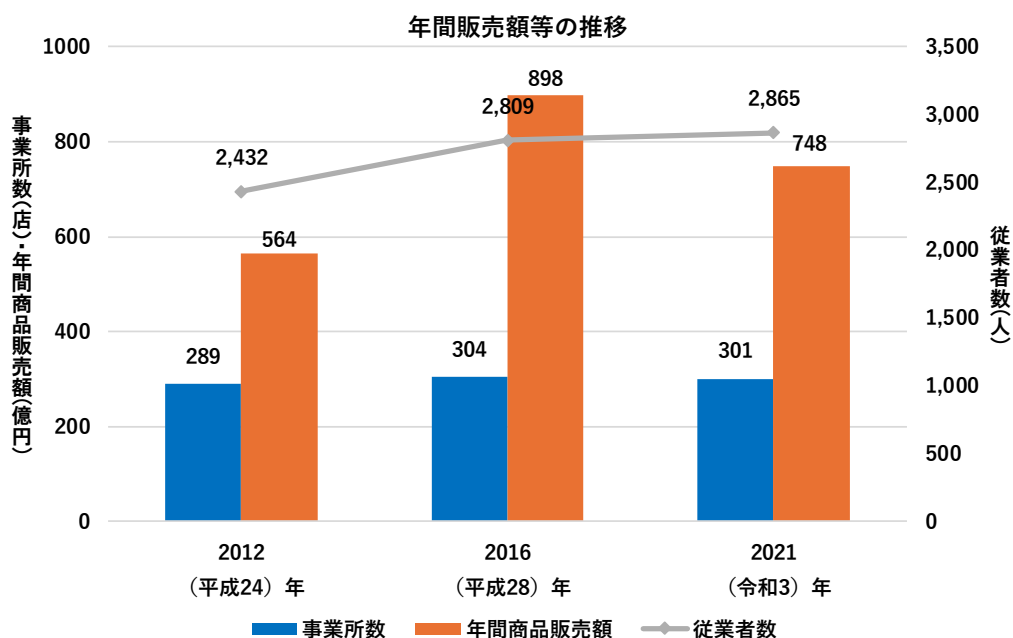
注) 従事者数については、統計における把握手法の変更に伴い、資料：農林水産省「農林業センサス」  
 2010（平成22）年及び2015（平成27）年は販売農家における従事者数、  
 2020（令和2）年は農業経営体における従事者数となっている。



資料：農林水産省「市町村別農業生産額（推計）」

### ③ 商業の状況

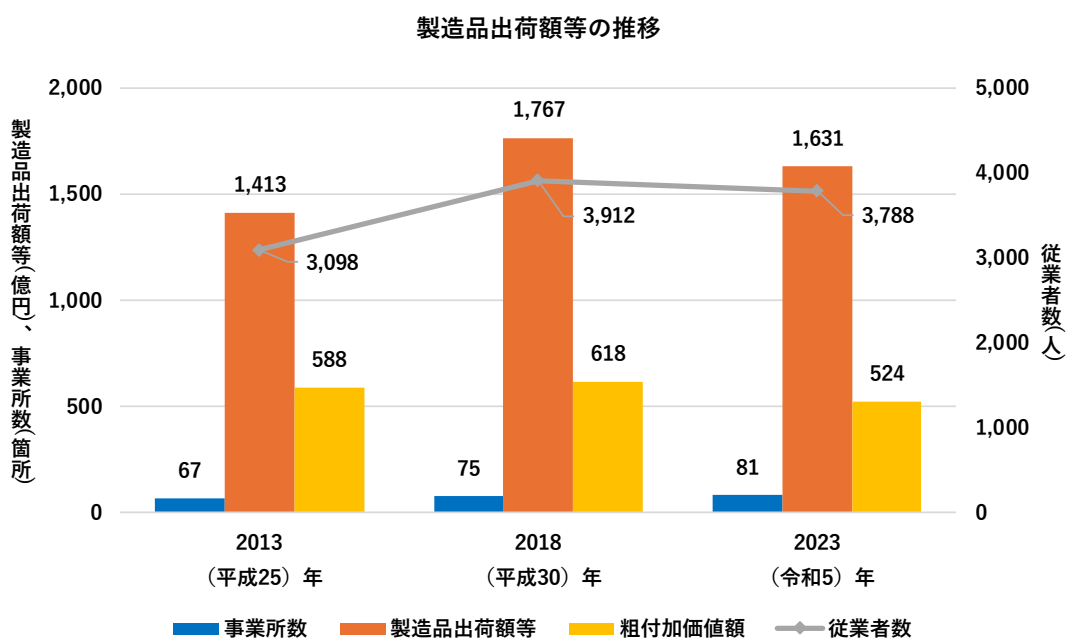
商業事業所数は横ばいで、一方、従業者数は増加傾向となっています。2016（平成28）年には年間商品販売額が898億円に達しましたが、その後、減少に転じています。



資料：経済センサス-活動調査

### ④ 製造業の状況

製造事業所数は増加傾向、従業者数は増加から微減傾向にあります。製造品出荷額等及び粗付加価値額は、増加傾向にあったものの、2023（令和5）年には減少しています。



資料：工業統計調査、経済構造実態調査

### 3. 市民の意見

#### (1) 市民意識調査結果（主要な回答）

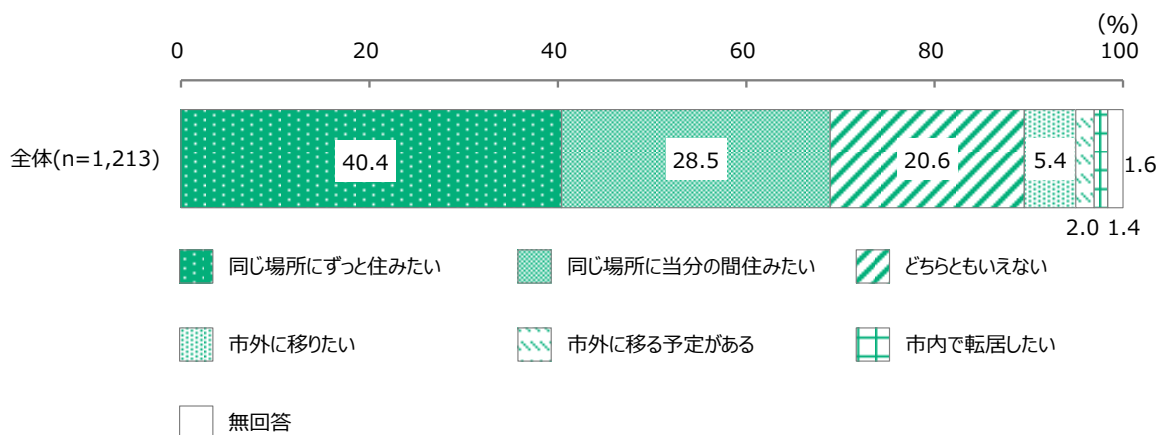
##### ① 調査概要

- ・ 調査期間 2025（令和7）年6月20日～7月23日
- ・ 調査対象 2025（令和7）年5月1日時点で市内にお住まいの16歳以上の市民4,000人
- ・ 抽出方法 年齢構成が反映されるよう調整のうえ、住民基本台帳より無作為抽出
- ・ 調査方法 郵送による調査票の配布（回収は、郵送またはWebフォームへの記入の選択制）
- ・ 回収結果 1,213票（用紙802票、Web411票）、有効回収率30.3%

##### ② 主な調査結果

###### ■ 蓮田市への定住意向

蓮田市に住み続けたい（「同じ場所にずっと住みたい」と「同じ場所に当分の間住みたい」の合計）と考える市民が約7割となっています。



#### 【市民意識調査結果について】

- ◆ 定住意向等、計画策定の背景として重要な設問に対する回答のみを掲載します。
- ◆ 本資料では表形式・グラフ形式の混載としていますが、分かりやすさの観点から、例えば表をグラフ形式とする等、今後も検討します。

### ■蓮田市のまちの魅力

蓮田市の魅力については、「都心に近く便利な交通アクセス」が約4割で最も多く、次いで「災害の少ない暮らしやすい土地柄」や「元荒川、黒浜沼、山ノ神沼、桜並木などの豊かな水と緑」などが挙げられています。

(上位5項目)

順位	項目	回答割合
1	都心に近く便利な交通アクセス	41.6%
2	災害の少ない暮らしやすい土地柄	36.4%
3	元荒川、黒浜沼、山ノ神沼、桜並木などの豊かな水と緑	27.4%
4	緑が多く閑静な住宅地	14.4%
5	昔から残る田園風景	12.9%

### ■将来の蓮田市

将来の蓮田市については、「安全で安心である」が6割を超えて最も多く、次いで「便利である」や「居心地がよい」が挙げられています。

(上位5項目)

順位	項目	回答割合
1	安全で安心である	65.5%
2	便利である	40.2%
3	居心地がよい	33.3%
4	快適である	27.0%
5	穏やかである	14.9%

### ■今後、重点的に取り組むべき施策

「生活環境の整備・防災」が約6割で最も多く、次いで「保健・福祉・医療の充実」や「都市基盤の整備」が挙げられています。

(上位5項目)

順位	項目	回答割合
1	生活環境の整備・防災	63.9%
2	保健・福祉・医療の充実	61.2%
3	都市基盤の整備	39.9%
4	産業の振興・消費生活の充実	36.4%
5	教育・文化行政	24.2%

## (2) 小・中学生アンケート結果（主要な回答）

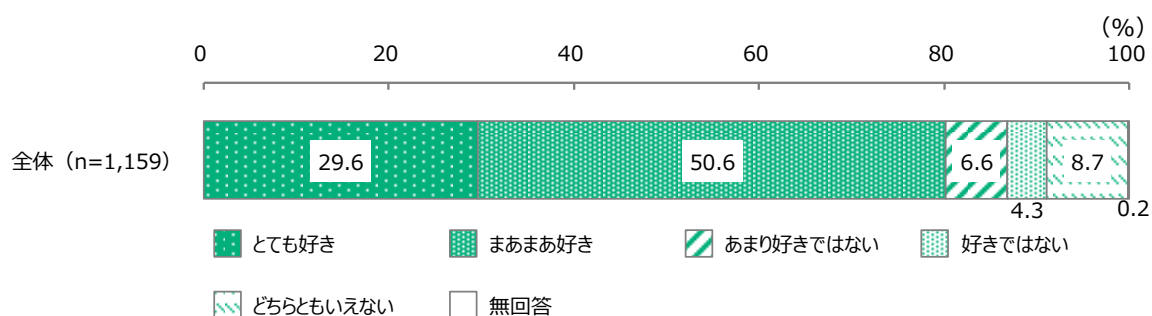
### ① 調査概要

- ・ 調査期間 2025（令和7）年6月16日～7月16日
- ・ 調査対象 蓮田市内の小中学校全校に在籍する小学6年生と中学2、3年生
- ・ 調査方法 児童・生徒一人ひとりが所有しているタブレットを使用し、WEBより回答
- ・ 回収結果 1,159票/1,298票（有効回収率89.3%）

### ② 主な調査結果

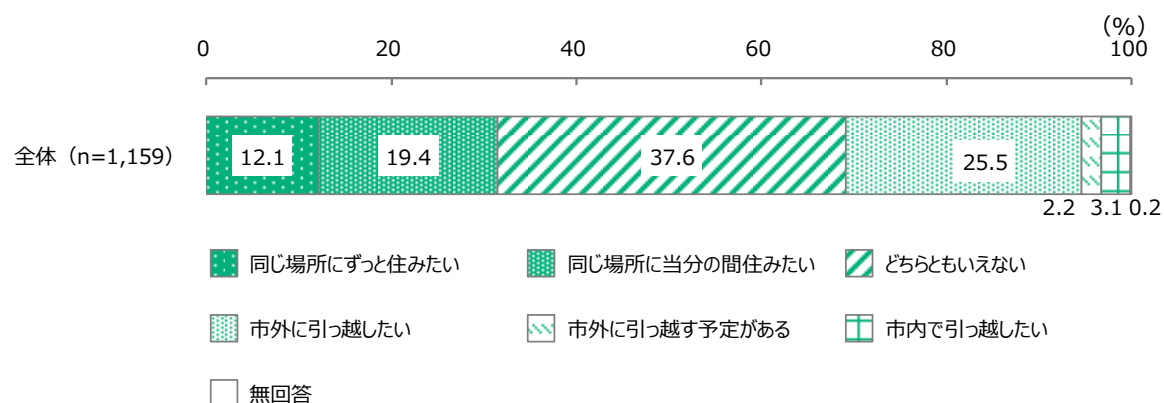
#### ■ 蓮田市への愛着

蓮田市が好き（「とても好き」と「まあまあ好き」の合計）という小中学生は約8割となっています。



#### ■ 蓮田市への定住意向

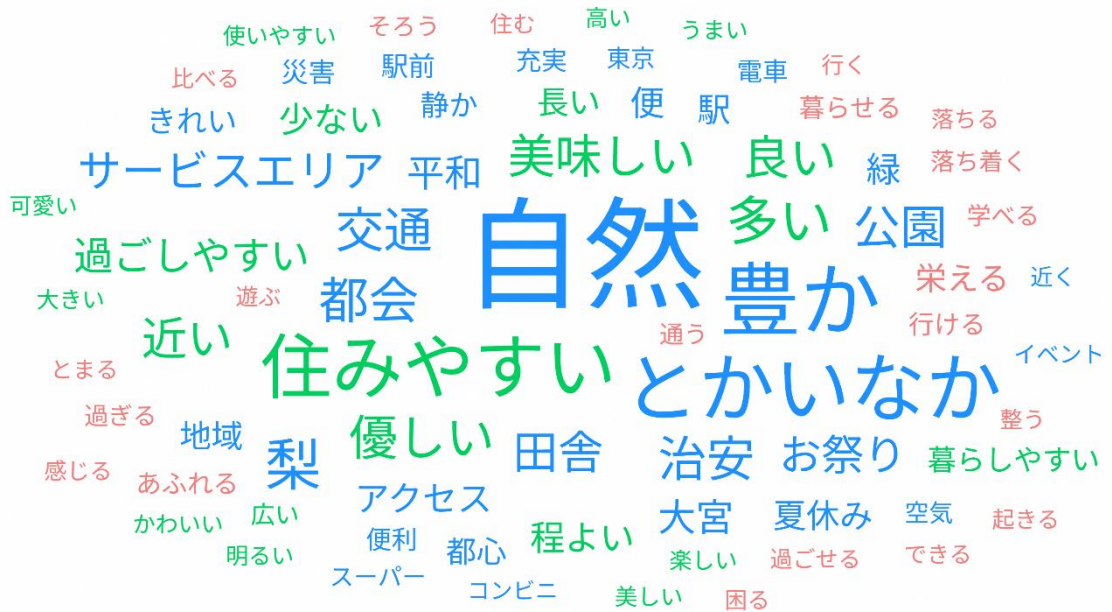
蓮田市への定住意向について、「どちらともいえない」が約4割で最も多くなっています。定住意向がある（「同じ場所にずっと住みたい」と「同じ場所に当分の間住みたい」の合計）は約3割、転出意向がある（「市外に引っ越したい」と「市外に引っ越す予定がある」の合計）も約3割で同程度となっています。



## ■蓮田市のよいところ

蓮田市のよいところとしては、「自然が豊かである」、「住みやすい」、「とかいなか」、「交通アクセスが良い」などの意見が挙げられています。

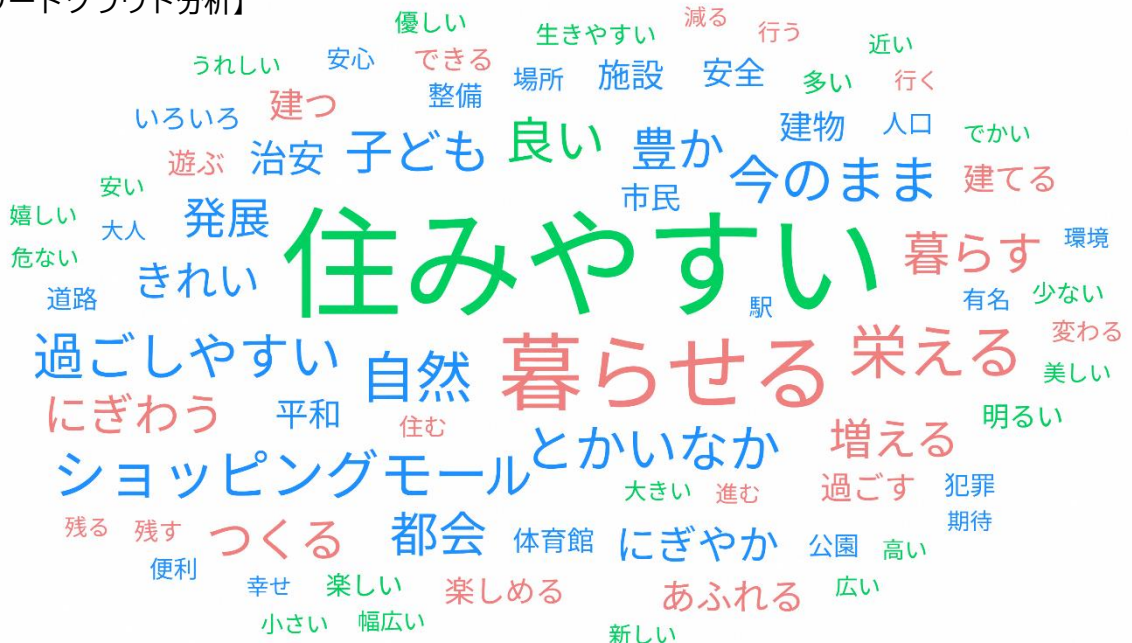
### 【ワードクラウド分析】



## ■10年後、蓮田市はどんなまちになっていたらよいか

未来の蓮田市については、「自然が残っていてほしい」、「今のままだいい」、「ショッピングモールがあるまちがいい」、「もう少し都会になってほしい」、「みんなが暮らしやすいまちがいい」などの意見が挙げられています。

### 【ワードクラウド分析】



### (3) 蓮田市総合振興計画市民会議における意見

#### ① 実施概要

この市民会議は、「蓮田市第6次総合振興計画」の策定の取組の一環として、市民の視点から意見やアイデアをいただき、今後のまちづくりに活かしていくことを目的に開催しました。

回数	日程	場所	テーマ
第1回	2025（令和7）年 8月30日（土） 9時30分～11時30分	蓮田市役所西棟 第3・第4会議室	・わたしの幸せ ・蓮田市の良いところ・気になるところ
第2回	9月21日（日） 9時30分～11時30分	蓮田市役所西棟 第3・第4会議室	・幸せを感じられるまちの姿（状態） ・幸せ実感のために活かせるもの・改善が必要なもの

#### ② 実施結果

それぞれのテーマについて、主に次のような意見が挙げられました。

##### ■わたしの幸せ

〈キーワード〉

自然、健康、つながり、家族・仲間、趣味・楽しみ、食、住環境・交通・買い物、生きがい、仕事、安全安心、教育学習 など

##### ■蓮田市の良いところ・気になるところ

〈良いところ〉

- ・都心へのアクセスが良い
- ・自然が豊か
- ・災害が少ない
- ・治安が良い
- ・静かである
- ・祭りやイベントが多い
- ・梨が特産物、米もとれる
- ・飲食店は多いが地域によって偏りがある
- ・人が良い
- ・はすぴいがかわいい

〈気になるところ〉

- ・市内の移動が不便
- ・バスのルートや本数が少ない
- ・歩道が狭く、穴や凹み、雑草
- ・駅前が寂しい
- ・警察署がない
- ・大きな病院が少ない
- ・地域活動の担い手の高齢化
- ・祭りやイベントの継続
- ・横のつながりがない
- ・世代によってはつながりが希薄

■幸せを感じられるまちの姿（状態）

〈キャッチフレーズ〉

- ・「みんな元気で楽しいまち」
- ・「高齢者を元気に！集まる街 蓮田」
- ・「行きたいところに行ける街 蓮田」
- ・「とかいなかの理想郷 蓮田」
- ・「何もない。でも未来が見える街」
- ・「みんながつながれる街」
- ・「つながりを大切にするまち」

■幸せ実感のために活かせるもの・改善が必要なもの

- ・運動のできる公園や施設を身近につくる
- ・道路の整備やコミュニティバスなどにより、市内の交通をもっと便利にする
- ・高齢になってもつながりを持てるよう、祭りや生涯学習に参加する
- ・環境学習館などの活用により、子どもから大人まで学び続けられる環境づくり
- ・地域での交流や活動に関する情報発信
- ・祭りやイベントを通じた地域間や世代間のつながりづくり
- ・子どもの遊び場や勉強する場など、子どもたち自身の意見を聴く

《ワークショップ風景の写真を掲載します》